

VI 成果と課題

この2年間の研究の成果としては以下の4点があげられる。

- ①キャリア教育の全体計画を作成した。
- ②年間指導計画にキャリア教育の項目をいれ、計画的にキャリア教育が行われるようになった。
- ③授業研究会を行い、自己有用感に関わる支援を確認できた。
- ④授業研究会を重ねることにより授業を見合うことにより、たくさんの意見交換がされ授業が改善された。

自己有用感はこれを行ったからすぐ育まれるというものではない。心の安定、成就感、自信の獲得、評価の工夫を通して自己有用感が芽生え育まれていく。この研究で得られた自己有用感に関わっていく支援を今後も意識して実践していくことが大切である。

よって今後も継続して以下の2点については実践していかなければならないと考える。

- ①毎年、本校の幼児児童生徒にあったキャリア教育の全体計画をとっているか確認し、キャリア教育を実践していくこと。
- ②学校生活すべての場面で自己有用感の形成や向上のための支援を意識し、実践していくこと。

以上のことを支援者一人一人が意識し、継続して実践して行くことが自立を支援し、「ありがとう」があふれる学校につながっていくと考える。